特定機能病院　地方独立行政法人　大阪府立病院機構　大阪国際がんセンター広報誌
「オーアイシーアイだより　2023 年冬号」Osaka International Cancer Institute
季刊　ボリューム 9　2023　Winter

Contents

2 ページ　潰瘍性大腸炎の発症にとうさが大きく関わることを発見
3 ページ上段　医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました
3 ページ下段　中国瀋陽大学腫瘍研究所、イン　ユエンチン教授が研究所で共同研究を開始しました
4 ページ上段　新型コロナウイルス感染症対策として入院前の抗原検査を実施しています
4 ページ下段　NEW!!　看護部の今どきユニフォームお披露目。 ユニフォームの 2 色使いとジェンダーレス
5 ページ　合同膵がん教室、今年も開催しましたアンド大阪市庁舎のライトアップが実現しました！
6 ページ　患者サービス向上に向けた取り組み
7 ページ上段　ホームページを更新しました
7 ページ下段　【連載】、はい、こちら「がん相談支援センター」です
8 ページ　ご寄付について

潰瘍性大腸炎の発症にとうさが大きく関わることを発見

　潰瘍性大腸炎は、結腸や直腸に持続的な潰瘍や炎症が生じる病気です。軽度なものから生命をおびやかす重度なものまでさまざまで、再発を繰り返すことも多く、いまだ良い治療法がありません。この病気は、大腸がんの発症につながることもあり、日本では現在、国の指定難病になっています。2015 年では、日本で約 3 万人がこの病気を患っています。

　このたび、当センター研究所のとうさオンコロジー部は、スペイン・バルセロナのバルデブロン研究所および東北医科薬科大学と共同研究を行い、この病気の発症が、とうさによって引き起こされるメカニズムを明らかにしました。この研究結果は、米国の研究学術誌の一つである「米国科学アカデミー紀要」に掲載されました。とうさは、グルコースやマンノース、フコースと呼ばれる糖が鎖状につらなったもので、人の細胞や臓器にさまざまな形で存在します。とうさは、人の腸管では、ムチンと呼ばれるタンパク質に結合しており、粘液に多く含まれます。今回のこの研究結果により、便に含まれるムチンのとうさを分析することで、潰瘍性大腸炎の予防や、病状の経過を予測することが可能になるかもしれません。

　私たちの腸管から分泌される粘液は、いわば洗浄液のように働き、腸管で有害な細菌を洗い流すことができます。しかし、潰瘍性大腸炎にかかると、ムチンのとうさの種類が変化することで、粘液の粘度が異常に高くなり、腸管の表面を厚く覆ってしまいます。そのため、有害な細菌が洗い流されず、粘着し、長期間、とどまってしまいます。その結果、腸管の表面から有害な細菌が入り込み、感染を引き起こして、初期の炎症反応を起こすことが明らかになりました。

　また、今回の研究では、患者検体の解析や、実験マウス・培養細胞を使った実験によって、このムチンのとうさの変化が、FUT8（フコース転移酵素）というとうさを作る酵素が異常に増加するためであることを突き止めました。FUT8 はコアフコースというとうさ構造をつくり、タンパク質の性質を物理的・生物的に大きく変化させます。FUT8 は現在、とうさオンコロジー部・部長である谷口　直之の研究グループが、1998 年の大阪大学医学部・生化学講座所属当時に遺伝子を発見し、その後、いろいろな病気との関連を明らかにしてきました。2016 年には、FUT8 が働かないマウスでは、潰瘍性大腸炎の症状が緩和されることを、大阪大学医学部の三善　英知教授のグループとの共同研究で明らかにしました。また一方で、バルセロナ・バルデブロン研究所のゲラルド・カンテロ・レカレンス博士のグループは、2013 年に FUT8 がムチンの分泌に関与していることを発見しました。これらの経緯から、私たちは、潰瘍性大腸炎における FUT8 の役割をより詳しく明らかにするため、共同研究を実施し、今回、このような研究成果を得ることができました。

　今後は、この発見から、潰瘍性大腸炎の治療や、大腸がんを予防する方法の開発に努めま

す。なお、カンテロ・レカレンス博士は 2022 年 12 月から 3 カ月間、欧州分子生物学機構(ＥＭＢＯ)のサポートを受け、当センターの研究所で共同研究を継続しています。

3 ページ上段

医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました

当センターは 2022 年 10 月 14 日に、国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所と連携協定を締結しました。この協定は、新規のがん診断・治療・予防法の開発、生活の質（キューオーエル）向上に向けた保健・栄養指導などの開発を目的としています。大阪母子医療センターも同日に協定を締結しました。

この連携協定が、大阪に本拠を置く 3 きかんの特徴を生かし、大阪をライフサイエンスのイノベーションとするための一助になれば幸いです。

3 ページ下段

中国しんよう大学腫瘍研究所、イン　ユエンチン教授が研究所で共同研究を開始しました

研究所 所長　谷口 直之

しんよう大学腫瘍研究所の　イン　ユエンチン教授が公益財団法人日中医学協会の日中笹川医学奨学金制度（共同研究型）に採択され、当センター研究所のとうさオンコロジー部と 2022 年 9 月から共同研究を開始しました。新型コロナにより来日が延び延びになっていましたが、イン教授は、これまで、乳がんにおけるインテグリンというタンパク質の役割の研究を続けておられます。インテグリンはとうさを持つタンパク質であることから、とうさの役割を明らかにすることを希望してらいしょされています。研究は大川 祐樹研究員が中心となり開始しました。滞在予定は 6 カ月の予定でしたが一年に延長される予定です。当研究所では、乳がんに関与するインテグリンのほか、CD151 というタンパク質についてもマウスおよびがん患者さんにおいての発現を観察し、またそれらのとうさ変化ととうさをつくるとうさ遺伝子の役割を解明する予定です。当研究所では現在 3 名の中国からの留学生を大阪大学連携大学院博士課程の学生として受け入れ、また 2022 年 11 月末からは、スペインのバルセロナからの上級研究者も加わり、英語を共通語として順応しやすい環境にあると考えています。

4 ページ上段
新型コロナウイルス感染症対策として入院前の抗原検査を実施しています

当センターには、免疫りょくが低く感染症にかかると重篤化しやすい患者さんが多くおられます。
全ての入院患者さんに安心して治療を受けていただくために、入院当日の入院手続きを行う前に、1 階入院受付前の検査会場にて「抗原定量検査」により陰性を確認した上で入院していただいております（入院時間が平日午後、夜間・休日の場合は、病棟にて抗原定量検査を行います）。
検査結果が判明するまで 1 時間から 1 時間 30 分ほどかかり、検査結果が判明するまで、病棟内のスペースでお待ちいただくことになります。
引き続き、新型コロナウイルス感染症対策に取り組んでまいりますので、みなさまのご理解、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

4 ページ下段
NEW!!　看護部の今どきユニフォームお披露目、　ユニフォームの 2 しょくづかいとジェンダーレス
看護部 副看護部長　山根 康子

看護部では 2022 年 10 がつにユニフォームを 5 年ぶりにモデルチェンジしました。今回は、看護部がこのユニフォームに込めた 2 つの思いをお話します。
ひとつ目は、働きかた改革への思いです。今回、日勤者はネイビーとピンク、夜勤者はワインレッドとピンクとユニフォームの色を変えて、勤務時間を“みえる化”しました。これによって勤務時間が過ぎたらユニフォームの色で残業している人が一目瞭然となり、みんなが時間や優先度・重要性を意識しながら助け合って働くようになりました。ふたつ目は、ジェンダーレスへの思いです。今までのユニフォームは男性はブルー、女性はピンクと上着の色を区別していましたが、今回は男女に関係なくユニフォームでジェンダー平等を表現してみました。看護部の理念でもある「多様性への対応」を目指す私たちは、「今を大切に」「自分らしく」「その人らしく」をモットーに、当センターの看護師として、患者さんだけでなく職員同士でも、多様な価値観を認め合える看護組織を目指します。

5 ページ上段
合同膵がん教室、今年も開催しました、アンド、大阪市庁舎のライトアップが実現しました！
肝胆膵内科副部長 膵がん教室代表　いけざわ　けんじ

　このたび 2022 年 11 がつじゅうくにちに、北海道膵がん教室・パンキャンジャパンのみなさまと、大阪府・大阪市・北海道・札幌市のご後援のもと、第 2 回合同膵がん教室を開催し、北海道と合わせ 200 めいを超える多数の方々にご参加いただきました。毎月第 3 水曜日にセンターないで開催していました当センターの膵がん教室は、コロナかの影響で参加者が限定されていた状況が続きましたが、チーム同士の交流をもとに、2021 年 11 がつに第 1 回の合同膵がん教室を北海道膵がん教室・パンキャンジャパンのみなさまとオンライン開催した経験を生かし、その後は完全オンラインあるいはハイブリッド開催で継続することができました。
　今回の第 2 回合同膵がん教室にさきだち、11 がつ 17 にちの世界膵臓がんデーには、大阪市庁舎のライトアップが実現しました。これはパンキャンジャパン・NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会のみなさまのご尽力、行政のみなさまのご理解によるものです。

　完全オンラインで開催した第 2 回合同膵がん教室では、松浦総長からのごあいさつの後、建築家・安藤 忠雄氏からの、氏が以前に膵がんの手術を受けられた際のご経験を踏まえた、患者さん・ご家族のみなさまへの気持ちのこもったメッセージを、北海道大学大学院消化器げかがく教室の・なかむら　とおる先生が朗読されました。続いての講演では、各領域の専門医師から膵がんの 3 大治療である内科治療・外科治療・放射線治療について、いけざわから膵がんの抗がん剤治療および最新の遺伝子診療について、センター消化器外科・秋田副部長から膵がんの外科治療について手術の方法や合併症なども含めて具体的な内容を、北海道大学大学院放射線治療学教室・かとう　のりお先生からは膵がん治療における放射線の位置付け、ようしせん治療などのことも含めてお話しいただきました。治療に対する講演の後は、当センターの加藤理学療法士によるリフレッシュタイム（ストレッチ）で参加者のみなさまにリラックスしていただき、運動の重要性についてもお話しいただきました。パンキャンジャパンのまじま理事長にはご自身の体験談、膵がん早期発見や膵がん研究の重要性、パンキャンジャパンでの幅広い活動についてお話しいただきました。会の後半のパネルディスカッションでは中村先生、パンキャンジャパン北海道の白岩支部長の司会により、患者さん・ご家族から事前に寄せられた多数のご質問に対して、演者から直接回答させていただきました。最後に、作曲家・あえば　こうぞう氏に今回の合同膵がん教室に合わせて作曲いただきました膵がんテーマソング“希望の光”（作詞：当センター内科・外科系外来・山田看

護師長）の合唱および当センター膵がん教室有志によるダンス、歌手・山口 愛氏の歌唱で会を終了しました。

合同開催後の反響としましては、患者さん・ご家族を含めた多数の参加者のみなさまから、“内容も分かりやすくとても勉強になった”など多数の好評の声を頂きました。貴重な情報発信の場をつくることができ、今後の活動のモチベーションにもつながったと思います。合同膵がん教室開催にあたりご尽力・ご協力いただきましたみなさま、またご参加いただいたみなさまに心より御礼申し上げます。

当センターの膵がん教室は、たくさんの職種のメンバーが連携して一つのチームとして活動できることが強みと考えております。今後もこの強みを生かして、情報発信の機会をさらに増やしていけたらと考えておりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

患者サービス向上に向けた取り組み

当センターでは、患者さんのお声に耳を傾け、きめ細やかで質の高いサービスを提供するため「患者サービス向上委員会」を設置しています。委員会では、ねんに 2 回患者さんを対象とした音楽会を開催しています（夏は七夕会、冬はクリスマス会など）。

また、職員向けの接遇研修や挨拶推進活動、患者満足度調査、院内の見まわりを実施し、当センターの理念「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」の実現に向け取り組んでいます。今回は、このような患者サービス向上に向けた取り組みについて、いくつかご紹介いたします。

まずは、当センターに計 11 カ所設置しているご意見箱（今年度より 2 階外来、9 階人間ドックにも設置）へお寄せいただいたご意見などに対して、改善した事例をご紹介いたします。

ジェンダーに関するご意見への取り組み

当センターでは、患者さんやご家族の立場に立ち、検査や治療を行えるように努めております。その中で女性患者さんから頂いたお声におこたえすべく、各診療科で取り組んでいるプライバシーへの配慮や患者さんの不安を取り除くサポートの例を詳細にヒアリングし、より多くのみなさまに知っていただけるよう当センターのホームページへ掲載いたしました。

例えば、放射線腫瘍科では、女性患者さん向けに女性技師のみで対応する「女性技師対応枠」を設けています。毎日（休診日を除く）午後 3 時から 4 時まで、放射線治療装置 4 台ちゅう 1 台で対応していますので、ご希望のかたは初診時にお申し出ください。

また、放射線診断・IVR 科では、乳腺撮影じは全て女性技師が対応し、CT 更衣室前では女性の係員が検査いのご説明や着替えが困難なかたを補助させていただいています。臨床検査科においても、生理機能検査では同性技師による検査に対応しておりますので、ご希望のかたは受付にてお申し出ください。

検査・治療を受けられる女性患者さんへのページ
https://oici.jp/hospital/patient/treatment-women/

デイルームにおける改善

病棟のデイルームでは、電子機器類のコンセントが床に散乱しており見た目も良くなく、

つまづく危険がありました。そこで、テーブルに電源タップを取り付けコンセントは結束バンドで固定し、気持ちよく安全にお使いいただけるよう改善いたしました。

外来における改善

外来処置室前には、患者さんの待ち時間における番号の表示がなく、順番が分かりにくいとのお声がございました。そこで、電子掲示板に表示させることで、順番を知っていただけるようになりました。

また、待合室でのストレスを少しでも緩和し、リラックスしていただけるよう「ミストミュージック」（つつまれ感のある癒しのおと空間）を導入いたしました。試験期間のアンケート調査でも好評でしたので、地下１階 放射線腫瘍科、1 階、2 階 外来および外来化学療法科にも拡大いたしました。

次に、患者さんの目線に立つために、当センター職員が心掛けていることについてご紹介いたします。

研修会、挨拶推進活動

当センターでは、ご意見などから挨拶の必要性を実感しております。そのため、患者さんへの挨拶や職員間での挨拶の日々の実践について、研修会や挨拶推進活動を通じて全職員に啓発しています。今年度は、ポスターや日めくりカレンダーに標語を書くことで、コミュニケーションの第一歩である挨拶の大切さをよく理解して毎日の診療に励んでいます。

また、接遇研修では、ホスピタリティに優れた施設からさまざまな視点を学んだり、職員の言動や情報の分析・救命事例の再現から円滑な医療提供を考えたりと、た職種連携での手掛かりとなる研修になりました。これからも研鑽を重ねてまいります。

この他にも、患者満足度調査結果に基づいた改善や、状況かに合わせた接遇マニュアルの改訂など、多様な活動をおこなっております。今後も、当センターでは患者サービス向上に努めてまいります。

7 ページ上段

ホームページを更新しました

ワンランクうえのサービス

　当センターの“ワンランクうえのサービス”をより多くのみなさまに知っていただくため、「利便サービスのご案内」や「特別病室・各個室のご案内」、「アートな病院プロジェクト」、「大阪 4 大オーケストラによるクラシック音楽会の開催」、「患者さんからの声」を掲載したページを、当センターホームページ上で公開しました。

　トップページ上部の、スライダー（画像が横向きに流れるスライドショー）よりご覧いただけます。また、ご来院されるうえで閲覧されることの多い「診療実績」や「主な医療機器」、「相談支援センター」、「交通アクセス」のページにもリンクできますので、お求めの情報がございましたらぜひご覧ください。

サービスご紹介のページ　https://oici.jp/center/service/

患者さんの権利と責務

　私たちセンター職員は、医療行為が患者さんと医療関係者との信頼関係の上に成り立つものであり、医療の中心はあくまでも患者さんであることを深く認識し、「患者さんの権利と責務」を制定しています。このたび、当センターの理念である「患者の視点に立脚した高度ながん医療の提供と開発」をより一層推進していくため、患者さんの権利を追加するなどの変更を行いました。今後も、患者さんの医療に対する主体的な参加を支援してまいります。

追加・変更後の患者さんの権利と責務

1、基本的人権が尊重され、診療におけるすべての個人情報が保護されます。

2、診療に関して十分に理解した上で、自らの意思で治療方法を選択し、治療に取り組んでいただきます。

3、充分な説明と情報提供を受けることができます。

4、別の医療機関の医師に意見を聞くこと（セカンドオピニオン）が、できます。

5、自由意思のもと、将来の患者さんのために診断治療の進歩に貢献していただきます。

6、良質な医療を提供するため、円滑な診療にご協力いただきます。

患者さんの権利に関する宣言のページ　https://oici.jp/hospital/outline/gaiyou/

7 ページ下段
【連載】、はい、こちら「がん相談支援センター」です
がん相談支援センター長　池山　晴人

【ファイル9】、がん患者さんへの自治体独自の助成制度について

本年もがん相談支援の現場からホットな情報をお届けしてまいります、どうぞよろしくお願いいたします。さて、今年最初の情報は「自治体独自の助成制度」です。

病気や障がいは暮らしに大きな影響を及ぼすため、がん相談支援センターではお金や介護などの相談をお受けすることが多くあります。そのなかには、がん治療に伴って起こる脱毛（頭髪、まつげ、眉毛など）、皮膚や爪の変色、爪の変形など「アピアランス」に関する困り事も寄せられ、ウィッグや補整下着などの情報をお伝えすることで、気持ちが前向きになったり、日々の外出や学校、お仕事へ復帰するきっかけになったりすることもあります。

このウィッグなどの費用は原則、ご自身の負担になりますが、近年、大阪ふかでも独自の助成制度を設ける自治体が増えているのをご存じでしょうか。がん相談支援センターで調べたところ、大阪ふか、11 市でウィッグやにゅうぼう補整具購入費に対する助成が始まっていました。
また、大阪府下 3 市では、介護保険の対象とならない 40 歳未満の若年がん患者さんが在宅療養する際に必要な物品やサービスへの助成が始まっています（令和 5 年 1 月現在）。

助成品目・金額や申請方法は市によって異なるため、このスペースで詳しくお伝えすることができず申し訳ありません。情報が必要なかたは、お住まいの市のホームページや広報誌でお調べになってみてください。また、当センター1 階「がん情報コーナー」に独自に助成を実施する各自治体のチラシを取り寄せて、各市のゆるキャラとともに配架していますのでご来院の際にぜひご覧ください！

がん相談ホットライン　情報提供・相談専用　06-6945-1870
希少がんホットライン　06-6945-1177
電話対応時間、　月曜日から金曜日　、祝日・年末年始を除く　午前 10 時から午後 4 時

8 ページ
ご寄付について
きふしゃ、ごほうめい　2023 ねん 10 がつついたちから 12 がつ 31 にち　受領日順／ご希望者のみ掲載
はせがわ　よしたか様、うえだ　すすむさま、にしやま　とおる様、にしやま　けいぶん様、まつむら　まさし様、みやた　しょうじ様、よしだ　まさこ様、よこやま　かずし様、うめかわ　のりこ様、おう　かねい様、もとめ　みえこ様、きたたに　はるみ様、やまだ　いくこ様、みつこしふどうさん株式会社　取締役会長　しんみ　あおい様、だいとう　せいこ様、まなべ　せいこ様、ささき　たけお様、かしわ　ゆきお様
ほか　とくめいしゃ 21 めい

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。
この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんにより良い医療とサービスを提供してまいります。
　お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください。
　https://oici.jp/center/effort/donation/

奥付
オーアイシーアイだより　2023 年冬号〈季刊〉
特定機能病院／地方独立行政法人　大阪府立病院機構　大阪国際がんセンター
発行　大阪国際がんセンター
編集　事務局　総務・広報グループ
〒541-8567　大阪市中央区大手前 3-1-69
TEL　06-6945-1181（代表）
2023 年 1 月発行

◆電車でご来院の場合
大阪メトロ「谷まち四丁目駅」北改札口から徒歩約 5 分／京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約 10 分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「ほうえんざか出口」より約５分／東大阪線「もりのみや出口」より約８分
【提携駐車場】
① エコロパーク大阪府庁駐車場
② 谷町筋地下駐車場（入り口は北向き１カ所のみ）

ほじょけんも同伴いただけます

ホームページ　https://oici.jp/
フェイスブック　https://www.facebook.com/OICI.jp
ライン　https://lin.ee/ZOcDHhU